

再評価実施事業調書

番号	4	事業名	社会資本整備総合交付金 公共街路整備事業		路線又は箇所名等	東武野田線(野田市)			
事業所管課		道路整備課		事業主体		千葉県			
事業化年度	平成19年度	用地着手年度	平成20年度	工事着手年度 工事認可年度	平成20年度 令和5年度	再評価の理由		再々評価	
費用便益比 B/C	1.3 (3.4)	総費用	355億円 (132億円)	総便益	449億円 (449億円)	基準年	令和元年度	供用開始年度	令和3 ~5年 度

※上段：全体事業費 下段（）：残事業費

【事業概要】

(目的)

本路線は、野田市の中心市街地を走行している東武野田線における、清水公園駅から梅郷駅間の約2.9kmを高架化し、既存の踏切11箇所を除却することにより、交通渋滞や踏切事故の解消を図るとともに、鉄道により分断されていた市街地の一体化を図るものである。

(内容)

- ・事業延長 : L = 2,905m
- ・除却踏切数 : 11箇所
- ・事業期間 : 平成19年度～令和5年度
- ・事業費 : 324億円(鉄道事業者負担分を除く)
- ・高架化する駅 : 愛宕駅、野田市駅

【事業の進捗状況】(令和元年度末見込み)

全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
324	193	131	60

【社会経済情勢等】

1. 踏切の遮断時間等や関連する他事業について

現在、11箇所の踏切における踏切遮断時間は、平均5.6時間/日・箇所であり、特に、県道つくば野田線及び県道野田牛久線との踏切では、踏切自動車交通遮断量(台時/日)が、各々7万4千台時/日及び5万1千台時/日となっており(いずれもボトルネック踏切(5万台時/日以上))、踏切を起点とする交通渋滞が慢性化している。また、平成26年度から平成30年度の踏切事故件数は、2件(物損事故)である。

周辺市街地の活性化を図るため、本事業により高架化される駅の整備に合わせて、愛宕駅周辺では土地区画整理事業や駅前広場の整備が実施されており、また、野田市駅周辺でも土地区画整理事業が実施されている。

2. 事業の投資効果

踏切を除却することにより、踏切の遮断時間がなくなり、踏切に起因する交通渋滞が緩和されるとともに踏切での事故が解消される。

【対応方針(案)】

継続

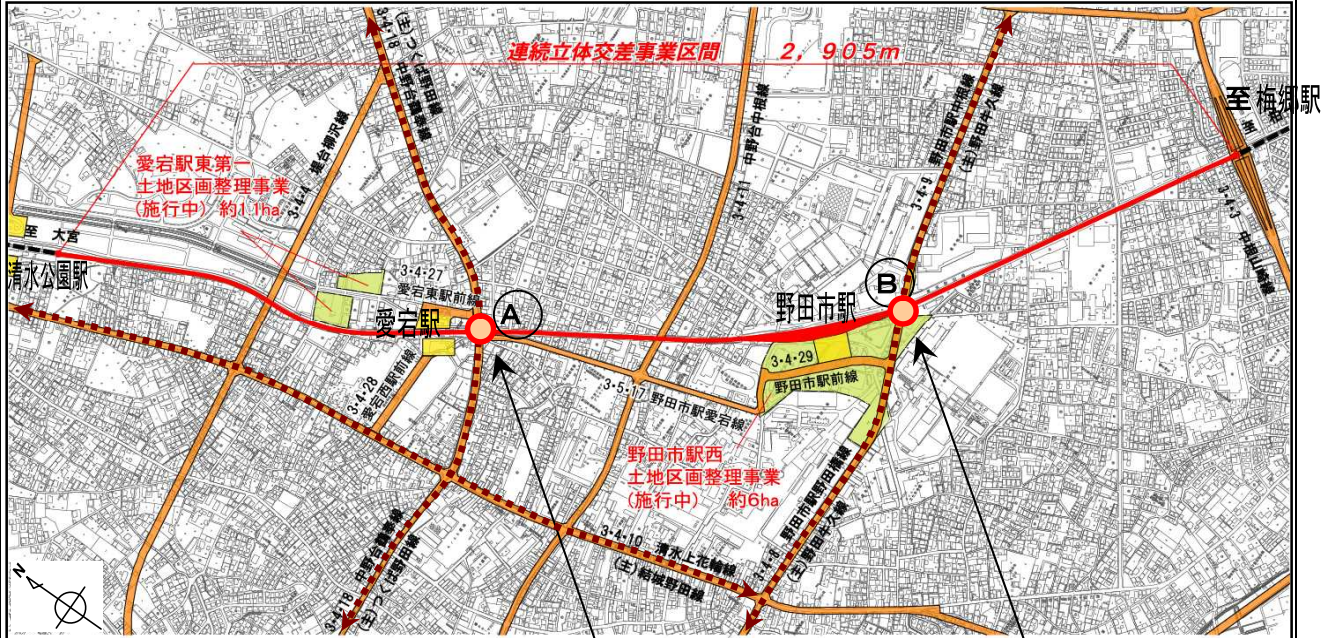
費用便益比(B/C)が1.3であり、費用対効果が見込まれる。

高架化により11箇所の踏切が除却され、高架区間内の踏切の遮断時間がゼロとなり、踏切に起因する交通渋滞や事故が解消されること、救急搬送時間の短縮が見込まれること、大規模災害発生時の輸送ルート確保による防災機能の向上につながることから、事業を継続し効果の早期発現を目指す。

事業概要図

番号	4	事業名	社会資本整備総合交付金 公共街路整備事業	路線又は箇所名 等	東武野田線（野田市）
----	---	-----	-------------------------	--------------	------------

平面図



凡例

	連続立体交差事業
	土地区画整理事業
	都市計画道路
	駅前広場
	県道
	ボトルネック踏切

○A 159号踏切（愛宕駅付近）



73,709台時/日 (H31)

○B 168号踏切（野田市駅付近）

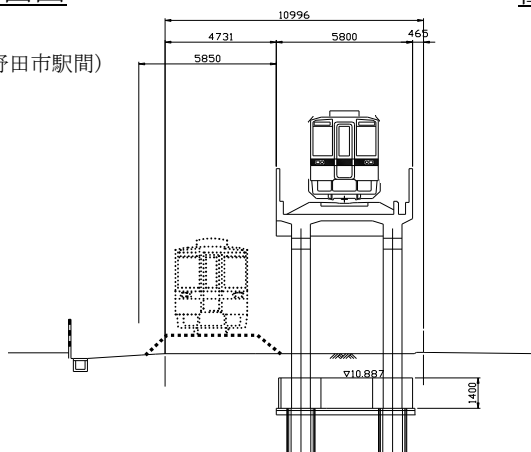


踏切交通遮断量

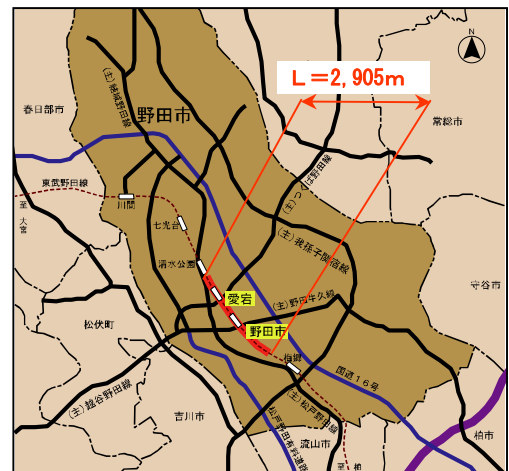
51,185台時/日 (H31)

標準断面図

中間部
（愛宕～野田市駅間）



位置図



再々評価事業に関する調書

番 号	4	事 業 名	社会資本整備総合交付金 公共街路整備事業		路線又は箇所名等	東武野田線(野田市)
事業化年度	平成 19 年度	用地着手年度	平成 20 年度	工事着手年度	平成 21 年度	
【再々評価の概要】						
再々評価実施年度 (基準年)	平成 26 年度	供用開始年度	平成 29 年度	対応方針	継続	
B/C	1.2 (1.4)	総費用	338 億円 (281 億円)	総便益	393 億円 (393 億円)	
(※上段：全体事業、下段()：残事業) 再々評価時の委員会の意見 及び当時の状況 ○継続することが妥当である。						
再々評価時の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状況						
	計 画	進捗状況(H26)	5 年後の想定進捗状況			
全体事業費	324 億円	38.4 億円 (12%)	324 億円 (100%)			
用地取得面積(借地)	4,930 m ²	4,930 m ² (100%)	4,930 m ² (100%)			
供用面積(延長)	2,905m	0m	2,905m			
【再々評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	R 元年度	供用開始年度	R3~R5 年度	対応方針	継続	
B/C	1.3 (3.4)	総費用	355 億円 (132 億円)	総便益	449 億円 (449 億円)	
(※上段：全体事業、下段()：残事業) 現在の進捗状況						
	計 画	進捗状況 (R 元末見込み)				
全体事業費	324 億円	193 億円 (60%)				
用地取得面積(借地)	4,930 m ²	4,930 m ² (100%)				
供用面積(延長)	2,905m	0m				
再々評価後の経過及び処理状況	平成 26 年度に仮線に必要な用地取得(借地)が完了した。 平成 29 年度に全線仮線切替が完了し、高架橋工事に着手した。 令和元年度現在は、高架橋工事(下部工及び上部工)を実施中である。					